

# News Letter

Vol. 09

2024年6月発行

島根大学

島根県立大学

松江工業高等専門学校

米子工業高等専門学校

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(調査分析)事業

### 令和5年度情報共有フォーラム 多様な力を活かす働きやすく働きがいのある研究環境とは

令和6年3月19日(火)、「多様な力を活かす働きやすく働きがいのある研究環境とは」をテーマに令和5年度情報共有フォーラムを対面とオンラインのハイブリッドで開催しました。年度末の忙しい時期にも関わらず、広島大学、島根大学、SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク協力機関の企業・団体、学生、その他大学の方々82名(うちオンライン49名)に参加していただきました。

島根大学は広島大学と共同で令和5年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(調査分析)」事業に取り組んでいます。本事業では、海外の大学及び研究機関の取組の現状と課題について調査分析を行い、地方に位置する高等教育機関の視点から、多様性(Diversity)、公正さ(Equity)、包摂性(Inclusion)を重視した研究環境づくりについて提言することをめざしています。

本フォーラムではまず石田洋子広島大学副学長および河野美江島根大学副学長より「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(調査分析)」事業の概要説明と実施状況が報告されました。

第1部では今年度の調査対象国であるスウェーデンとアメリカ合衆国の視察報告を行いました。スウェーデンでは日本の地方大学の規模や所在地が似ている4つの大学を訪問調査したとのことです。本調査に参加した本学丸山准教授から、各大学で「大学の基本方針、取組の変遷と成果」「取組の計画策定と実施上の工夫」「地方大学としての戦略」「STEM関連のすそ野拡大」「自治体、

企業や地域との協力」について面談者に話してもらい、多くのヒントを得たとの報告がありました。アメリカ合衆国の2つの大学を調査した本学香川准教授からは、インタビュー調査の結果を受けて、現時点で考えうる「女性研究者確保に関わるいくつかの提案」がなされました。

これらの海外調査は次年度も行われ、すべての調査の分析を行った後、最終シンポジウムを開催するとのことでした。

第2部では、地方大学における女性研究者支援の現状と課題として山陰の各高等教育機関の若手研究者の方々の事例報告で始まりしました。登壇した4名の若手研究者はいずれも教職歴が1~5年と浅いながら、研究、教育そしてプライベートにおいても試行錯誤しながら頑張っている日々様子とそこで感じた課題を発表しました。その発表では、プライベートなイベントが起きた場合は同僚の方々に相談することで、講義担当を変更してもらうなどの協力を得ており、とても感謝しているが、制度整備や周知方法は充分ではないという率直な意見がありました。また、忙しすぎて家事ができないという声もありました。

若手研究者の発表を受け、海外調査報告者や事業担当者を含め、パネルディスカッションが行われました。

「スウェーデンでは育児は男女一緒にというのが良くみられた」「日本では家事は女性が行わなくてはいけないといった無意識のバイアスがあるのでは」「女性に限らず全員が活躍するためには制度を整えることが大切であると改めて感じた。また意識を変え



ていくことも大事だと感じた」 「数十年前に比べて理工系を希望する高校生が増えており、若手研究者の理工系の学びが楽しいという本日の報告からも今後が期待される」という課題や期待について意見が出されました。

今回のように海外の調査報告や若手研究者の事例発表を多くの人と共有し、同じ視点で話し合うことで「働きやすく働きがいのある研究環境とは何か」について改めて考えることができ、次年度行う提言策定に向けて前進できたフォーラムとなりました。



## 「吃音を考える」を開催しました

令和5年12月5日(火) 昼休みの時間帯に、第104回拡大版さぼっとカフェ(オンラインイベント)「吃音(きつおん)を考える」を開催しました。当日は25名の参加があり、講師として和崎 晃典氏(島根言友会会長・島根県立隠岐養護学校教諭)と糸賀 亜美氏(出雲医療看護専門学校教員・言語聴覚士)をお招きしました。

吃音とはどういうものなのか、吃音に悩まされている学生への支援として何ができるか、また当事者は何をしたいのかなど、具体的な例を出していただきとても分かりやすい講演でした。

また、島根言友会の会長である和崎先生からは、全国組織で設置された言友会は、吃音がある方のセルフヘルプグループで、吃音があってもなくても、豊かに生きるといのはみな同じであるという会長の思いなどを伝えていただきました。



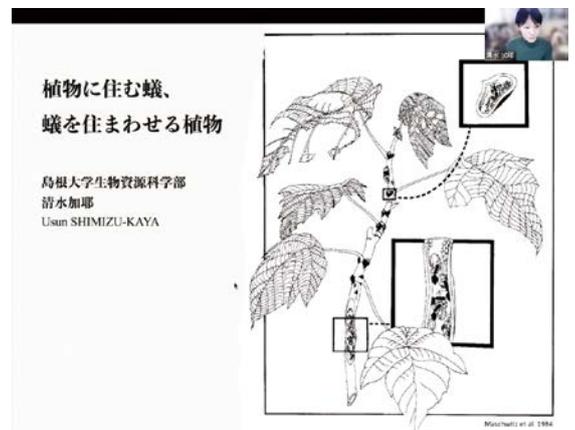
## SAN'IN ご縁ネットミーティング

分野を超えた研究ネットワーク、研究アイデアのひらめきのきっかけ、新たな共同研究などを生み出す「場」作りを目的として月に1回程度開催しています。ご縁ネットミーティングでは、「メンバーが自身の研究を中心に話題提供し、参加者でディスカッションする」学びながら交流を深める企画を実施しています。

### 第65回「植物に住む蟻、蟻を住ませる植物」

【日時】 令和6年1月16日(火) 12:10~13:00  
 【講師】 島根大学生物資源科学部 清水加耶助教  
 【参加者】 11名

熱帯地域では「アリ植物」と呼ばれるアリの営巣に適した空間を擁する植物がみられます。アリ植物に住むアリは植物上を歩き回り、あたかもボディガードのように振る舞います。オオバギというアリ植物と、それらを取り巻く生物の種間関係を紹介しました。



## 刊行物紹介

※刊行物について、入手をご希望の方はダイバーシティ推進室までお問い合わせください。

### SAN'INダイバーシティ推進ネットワークの推し研究室vol.2

令和5年4月1日から令和6年3月31日に行った、SAN'IN Girlsの活動の紹介及び、理系研究室で学ぶ女子学生のメッセージも掲載しています。SAN'INダイバーシティ推進ネットワークホームページ/刊行物・資料/データ資料・報告書に掲載していますのでご覧ください。

(掲載場所)

[https://diversity.shimane-u.ac.jp/\\_files/00336741/vol\\_2.pdf](https://diversity.shimane-u.ac.jp/_files/00336741/vol_2.pdf)



## 第2回異業種交流会を開催

令和6年2月27日(火)に、第2回異業種交流会を開催しました。第一部では「女性活躍に向けた取組について」と題し、山陰合同銀行取締役監査等委員 中村真実子氏、同行執行役員米子営業本部長 吉岡佐和子氏、本学副学長(ダイバーシティ推進担当) 河野美江氏が登壇しました。第二部では、グループに分かれ、各職場での現状や女性活躍を推進するためにどのようにすればいいか等、短時間ではありましたが貴重な情報交換ができました。今回は第一部72名、第二部も54名の多くの参加者があり、地元企業間では今までこんな機会がなく新鮮だったと感想も聞くことができました。



## だれもが輝く職場づくり「ダイバーシティと企業価値向上」

令和6年2月16日に、まつえワーク・ライフ・バランス推進ネットワークによるシンポジウム、【ダイバーシティと企業価値向上】がホテル一畑にて開催されました。パネルディスカッションでは、本学副学長の河野がコーディネーターを務め、モルツワエル株式会社専務取締役の野津明子氏、キャリアコンサルタントの越野由美子氏、上定昭仁松江市長よりそれぞれ発表がありました。

## 公開授業「ジェンダー～性を科学する～多様な性と生」

令和5年11月17日島根大学保健管理センターとダイバーシティ推進室が主催し「ジェンダー～性を科学する～多様な性と生」の公開授業を開催しました。当日は、LGBT理解啓発講師の佐藤みどり氏をお招きして話していただきました。通常受講生206名の他に公開授業申し込みがあった5名も対面の授業に出席いただきました。

## 進路発見バスツアー(医療編)を開催しました

令和6年3月5日(火) 8:30~16:05「進路発見バスツアー」(医療編)を行いました。当日の参加者は高校1・2年生27名でした。午前に島根県立大学出雲キャンパス(看護学科)、午後は島根大学出雲キャンパス(医学部)をバスで訪問しました。到着後、教職員から学びや進路先についての話を受けました。最後は、実際に学んでいる大学生との座談会も実施され活発な交流がなされました。



## 研究室紹介動画サイト

令和3・4年度に制作した研究室紹介動画が好評だったことから、令和5年度も研究室紹介動画を追加制作し公開しました。島根大学で学んでいる女子学生から「自分が出会ったこと」「目指すこと」をテーマに研究室の魅力、進路選択、後輩へのメッセージを発信しています。中高生はもちろん、保護者の方、企業の方なども学生がイキイキと活躍する研究室をご覧ください。

<https://diversity.shimane-u.ac.jp/for-prospectivestudents-parents/>





公立大学法人  
島根県立大学

## 第8回「カタリバ」の開催

令和6年2月27日（火）13:00～14:30にZoomにて第8回カタリバを開催いたしました。カタリバは島根県の看護管理者のネットワークを促進し、管理者としての自信と勇気の湧く場を目指しています。令和2年に始まり、第8回を迎えました。今回のテーマは「自分たちの活動を、倫理的側面から『ポジティブに』見つめてみよう」でした。看護倫理は問題のときばかり注目されがちで、看護職は看護倫理に「難しい」とか「暗い」イメージを持っています。しかし、看護実践は常に看護倫理と共にあります。看護倫理は日常に転がっているのですが、あまりにも日常なのでなかなか気づくことはできません。この日常に焦点を当て、自分たちの実践をポジティブに振り返り語る場を設けました。参加者からは「倫理的視点でとらえたことを互いに認め合うことが重要だと学びました」「グループワークも日ごろ現場で抱えている葛藤を話し合うことができ元気ができました」「ちょっとした時間ですが、語り合うことは改めて大切だと感じました」など、前向きな意見がありました。2024年度は2回の開催を目指して準備を進めております。



独立行政法人国立高等専門学校機構  
松江工業高等専門学校  
National Institute of Technology, Matsue College

## 松江高専男女共同参画研修会（男性の家事参画に関する研修会）を開催

令和6年2月22日（木）、コンパスグループ・ジャパン株式会社 山本 和広氏他3名を講師にお招きして、男女共同参画研修会（男性の家事参画に関する研修会）を開催しました。

この研修会は、普段あまり料理をしない本校の男性教職員に、家事の大変さを体験してもらい、家事分担に関する理解を深めることで、本校の男女共同参画推進とワーク・ライフ・バランスの意識啓発を目的として実施し、18名の参加がありました。

研修会では、実際の調理実習を通じて家事の大変さを理解すると同時に、業務改善を始めとしたディスカッションを行うことでワーク・ライフ・バランスに対する理解を深めました。



## 松江高専男女共同参画研修会（ハラスメント防止研修会）を開催

令和6年2月27日（火）、株式会社リカレントの齋藤れいこ氏を講師にお招きして、男女共同参画研修会（ハラスメント防止研修会）を開催しました。

この研修会は、ハラスメントの防止について理解を深め、ハラスメントと思われる事案の発生防止のための意識の向上を図ることを目的として実施し、57名の参加がありました。

研修会では、ハラスメントとはなにか、ハラスメントを防止するための心構え、セクシャルハラスメントとパワーハラスメントの基本と対策等を学習し、ハラスメントに対する理解を深めました。



独立行政法人 国立高等専門学校機構  
米子工業高等専門学校  
National Institute of Technology (KOSEN), Yamaguchi College

## 校長と教職員との懇談会を開催

令和6年3月28日（木）、校長と教職員の「産休・育休に関する懇談会」を開催しました。懇談会には、校長、教務主事、学生主事、寮務主事、男女共同参画推進室長を含めて男性・女性教職員15名が参加しました。懇談会は、男女1名ずつの教員による産休・育休の実体験についてのプレゼンテーションから始まり、そして質疑応答に続いてフリートークが行われました。女性教員は、出産という自身の体験と、その後の育児に携わって感じたことから、学校や所属部門の理解や協力が不可欠であるという内容で発表しました。参加者からは、そのような事は分かっていたつもりだったが、具体的なお話を伺ってより切実であることを再認識したという感想が述べられました。また、出産前の体調不良等の期間や症状が個人によって大きく違うということも話題になり、多くの参加者にとって有益な情報を得ることが出来ました。一方、男性教員からは、「本校初の男性教員の育休」ということで、育休に入る前に準備したり計画したりした事について、詳しい内容の発表がありました。前例が無いために苦労した事や、育児というのは、なかなか計画通りにはいかないといった実例に基づいた内容で、参加者にとって大変参考になる発表でした。また、発表の中では、本校教職員が活用可能な種々の制度についての紹介もあり、これまでよく知らなかったという参加者も多く、よい情報共有及び情報交換の場にもなりました。

## 先輩リケジョによる母校での講演会

女性が理系の進路を目指す、通称「リケジョ」の魅力やメリットを女子中学生に伝えることを目的として、本校女子学生が先輩リケジョとして出身中学校へ出向き、講演会を実施しました。令和5年11月に、11人の女子学生が7校を訪問して各中学校の3年生を対象に講演と交流を行いました。中学校によっては、女子生徒だけではなく、男子生徒にも聞かせて欲しいとの要望もあり、大変好評でした。